

「沖縄タイムス（新聞）記事」のご紹介

校長 中村 成希

八洲学園大学国際高等学校の芸能スポーツクラス（格闘技部門）に在学中で、プロ総合格闘家の「知名 昴海（ちな すかい）」君の活躍が、沖縄タイムス（令和5年5月13日朝刊）に載っておりましたのでご紹介します。【提供：沖縄タイムス社】

16歳プロ格闘家 世界照準

県内では例をみない16歳のプロ総合格闘家が誕生した。夢への大きな一歩を踏み出したのは宜野湾市出身の知名昴海（すかい）＝八洲学園大国際高2年。2022年10月にアマ修斗全日本選手権ストロー級で3位の好成績を取って念願のプロ昇格を果たした。今年4月の修斗沖縄大会では打撃と寝技を駆使してオールラウンドな強さを発揮しプロデビューを白星で飾った。「強くなりたいと幼いころからずっと思っていた。まずは修斗のチャンピオンになって、このまま負けずに勝ち進んでいきたい」と語り、総合格闘技の世界最高峰・米UFC参戦も目指す。（溝井洋輔）



プロ選手としての目標を話す知名昴海

知名昴海 全日本アマ修斗3位で昇格

総合格闘技はパンチやキックなどの打撃や組技、寝技を駆使して闘う。知名は4歳で空手を始めたころから、それぞれの段階で技術を身につけてきた。小学3年で始めた柔術では2年後に世界大会の世代別部門で優勝。中1からはキックボクシングを取り入れ、中3で満を持して総合格闘技の道へに入った。

そして高1となった昨年6月、アマ修斗県大会を制し、続く10月の全日本選手権で3位。その実績から日本修斗協会にプロと認められた。大会翌日に神奈川県で吉報を知った知名は、幼いころからの夢に大きく近づいた喜びを感じた。

今年4月に行われたデビュー戦の準備でスポンサーを募り、徐々にプロの実感がわいてきた。当日の試合はヘッドギアやサポーターはない。まさにプロの真剣勝負の舞台。他の格闘技で10年以上のキャリアがある広島県の33歳と闘った。知名は1ラウンド（R）から打撃で優位に立ち、2Rに相手が嫌がって寝技に持ち込んだところをバックチョークを決めて一本勝ちした。デビュー戦とは思えない総合力を発揮した試合運びに会場は沸いた。「ヘッドギアは苦手だったので、なくてやりやすかった。ひじも使えた。打撃も寝技も両方できたのでよかった」と振り返った。

次戦は決まっていないが、年内に1～2試合行う見通し。ランキング入りに向け一つ一つ勝ち星を積み上げていく決意だ。柔術家でトレーナーを務める父・亮哉さん(43)や2歳下の妹・真陽菜さんとともに日々、身体づくりや技の精度を高める鍛錬に励む。高校の課題をこなしながらキッズの指導などにも取り組んでいる。

「強い選手はいっぱいいる。その中で良い技を取り入れて自分のスタイルをつくっていききたい」。16歳のプロ総合格闘家はさらなる強さを追い求める。

光る打撃と寝技 初戦白星



寝技の練習に励む16歳のプロ総合格闘家・知名昴海＝北谷町・カルベディエム沖縄（小宮健撮影）

ちな・すかい 2006年7月、宜野湾市生まれ。普天間小、普天間中を経て八洲学園大国際高2年。アニメ「グランプラー刃牙」に影響を受け「強くなりたい」と4歳で空手を始める。小3から柔術を

取り入れ、小5のときにヒクソン・グレイシー杯国際選手権に2歳下の妹・真陽菜とともに年代別優勝。中1からキックボクシング、中3からは総合格闘技を始める。高1に進んだ22年6月、アマチュア

修斗沖縄選手権ストロー級優勝。10月の全日本選手権で3位に入りプロ昇格を果たした。23年4月に沖縄市で行われたプロデビュー戦は2Rでバックチョークを決め、勝利を飾った。160㎝、55㎏。